

小海高等学校生活指導係発行

目をそむけたくなる男女交際

君たちが“これくらいはいいだろう”と思っている程度と、地域の皆さんが思っている程度には、大きな開きがあるように思われます。例えば、次の点についてはどうでしょうか？

登下校時や学校で手をつないでいる

登下校時や学校で腕を組んでいる

登下校時や学校で肩に手をまわしている

登下校時や学校で腰に手をまわしている

登下校時や学校で抱き合っている



ひょっとすると、君たちの感覚では、
、 は「まあ、いいんじゃないか」、
、 は「ちょっといけないかな」、
、 は「行き過ぎだろう」と分かれるかもしれません。

しかし、世間では高校生が手をつないで登校する姿にも「学校へ何しに行っているんだらう」と不快感を感じる人が多いのです。最近「手をつないで登校する男女が目につきますが」とのご指摘を受けることが目立ってきました。公の場では、自分たちだけではない、つまり、多くの人と場を共有することになることを忘れず、自己満足に陥り、周囲の人への配慮が欠けないようにしたいものです。このような行為を見かけた場合にはその場で注意をします。気をつけてください。

与えられたチャンスは逃してはいけない

表と裏のある行動は信頼を損ねる

身だしなみ指導、交通関係指導、いじめ・暴力指導など、学校ではいろいろな指導を行っています。それぞれの指導が、君たちに与えられたチャンスです。「君はこんなことで目立つんじゃないかと、別のことで目立つべきだらう」「こんなことをしていたら命を危険にさらすことになるぞ」など、実際の声や心の叫びがそれぞれの指導には込められています。「うざい」「また言ってるよ」ではなく、チャンスを与えられているうちに気付き、あらためることが大切です。

朝、時々昇降口で立ち番指導を行っています。ほとんどの人は言われなくても、埴輪スタイルを直して行きます。しかし、一部には先生がいれば直すけれど、先生がいなければ直さない人がいます。その行動にその人のありようがあらわれています。「裏と表があり、信用できない人だ」と思われてしまうのです。